



| | |
|------------------|---|
| Title | 北大法学論集総索引 第1巻 - 第20巻 (1951年 - 1970年) |
| Citation | 北大法学論集, 21(4), 212-200 |
| Issue Date | 1971-03 |
| Doc URL | http://hdl.handle.net/2115/27913 |
| Type | bulletin (article) |
| Note | 総索引 |
| File Information | 21(4)_P212-200.pdf |



[Instructions for use](#)

北大法学論集総索引

第1巻—第20巻

(1951年—1970年)

凡 例

1. この索引は、北大法学論集の第1巻から第20巻までに掲載された論文の検索の便宜のために作成された。
2. 項目の選定は便宜的なものである。
3. 1つの論文が2つ以上の項目にまたがる場合にはダブルで掲載した。
4. 各項目の中の配例は発表された時の古いものから順にならべた。
5. 書評・紹介には△印を頭に付した。
6. 執筆者索引は付けなかった。専攻分野にとどまらずに執筆された論文もあるので、他の項目もみていただきたい。

| 1 法学方法論・法社会学 | (巻)(号) |
|---|-----------|
| Le droit et la morale — un mémorandum Noboru Koyama | 2 |
| 扶養意識の諸様相 | |
| —北海道農村における意識調査より | 品川孝次 6 |
| 法の解釈の科学性について | 小山昇 7—1 |
| 司法上の決定とコミュニケーション | |
| —交通事故に基づく業務上過失致死傷事件 に対する略式手続の合理化のために | 能勢弘之 15—1 |
| デニング裁判官とその判決 | |
| —ブル対ブル事件の意味 | 浅見公子 15—2 |
| △ Thomas A. Cowan "Decision Theory in Law, Science and Technology" | 能勢弘之 15—2 |
| △ 「コンピューターによる判決の分析と予測」 | |
| —特に Reed C. Lawlor の方法について | 能勢弘之 15—3 |
| 2 法史学 | |
| 封建的土地所有の公権力的性格 (一三) | |
| — Gewere に関する一試論 | 藪重夫 5, 6 |

索引

| | | |
|--|---------|-------------------------|
| Use 受益権とその史的性格 (十一) | 菅原 勝 伴 | 6, 7-1 |
| 封建制の成立と封建社会の《細胞》 | 石 川 武 | 8-1・2 |
| 学説史と思想史—椽川氏による「中世国家論、 批判の発想法」をめぐって | 石 川 武 | 9-3 |
| 西独シュヴァルツヴァルト地方における 農地の末子相続 | 川 井 健 | 10 |
| △クレッシェル「ゲルマン法におけるジッペ」 | 石 川 武 | 11-4 |
| ボーズルの「アーデルバウアー」に関する構想 —松田智雄教授の近業に対する一つの疑問 | 石 川 武 | 12-1 |
| 西独ヴェルテンベルクにおける農地の一子相続 | 川 井 健 | 12-1 |
| 国王自由人学説とその問題点 (十一)内 —中世初期ヨーロッパ国制史研究への 一つのアプローチ | 石 川 武 | 12-2-3-4, 13-1-2-3-4 |
| イギリスにおける妻の財産法上の地位 (十一)(3・完)—附 資料(制定法訳) | 浅 見 公 子 | 12-3-4, 13-1 |
| イギリス初期議会史研究の動向について フランチァイズ裁判権と「王国共同体」の成立 | 山 下 和 夫 | 13-1 |
| | 山 下 和 夫 | 14-2 |
| 法学史における夫婦間の贈与(上) | 小 菅 芳太郎 | 14-3-4 |
| ルプリア法 — 名誉法の一問題点 | 小 菅 芳太郎 | 15-3 |
| 神官の解答活動(市民法の法源) | 小 菅 芳太郎 | 15-4 |
| ウルピアヌス市民法註解第17巻について (1) | 小 菅 芳太郎 | 17-1 |

3 憲 法

憲法・憲法学一般

| | | |
|---|---------|----------|
| G. エロー教授の法理論の特質 | 深 瀬 忠 一 | 14-2 |
| A. エスマンの憲法学 —フランス現代憲法学の形成 (1) | 深 瀬 忠 一 | 15-2 |
| L. デュギイの行政法論と福祉国家 (a)(b) —フランス現代憲法学の形成 (2) | 深 瀬 忠 一 | 16-2-3-4 |
| M. デュヴェルジェ教授とJ. ロベール教授 を迎えて —フランス憲法・政治学の若干の側面 | 深 瀬 忠 一 | 17-3 |
| △1965—1966年度フランス公法文献紹介 | 中 村 睦 男 | 17-4 |

索引

| | | |
|---|----------------|---|
| 基本的人権 | | |
| ボン基本法と契約の自由 | 五十嵐 清 | 10 |
| フランス憲法における社会権の発展 (1)-(3完) | 中 村 睦 男 | 14-2, 15-1-2 |
| 1789年人権宣言研究序説 (1)-(3) | 深 瀬 忠 一 | 14-3・4, 15-1, 18-3 |
| 親権と子どもの教育を受ける権利 | 中 川 良 延 | 14-3・4 |
| 西ドイツ農場令の違憲性 | 川 井 健 | 14-3・4 |
| アメリカ合衆国における政教分離の原則 (1)-(7) | 熊 本 信 夫 | 15-3・4, 16-1-4, 17-1, 18-2, 19-1 |
| One Problem Concerning the Principle of Separation of Religion and Politics under Article 20 of the Constitution of Japan | Nobuo Kumamoto | 16-2・3 |
| 宗教的不寛容のあらゆる形態の除去に関する 国際協定草案 | 熊 本 信 夫 | 17-3 |
| 良心的兵役拒否 (一)-(三) ——ボン基本法四条三項の構造と特質 統治機構・過程・作用 | 笹 川 紀 勝 | 18-1-2-3 |
| フランス憲法史における条約と国内法 (一)-(三) | 深 瀬 忠 一 | 7-2-3・4, 8-1・2 |
| 多数決と白票 | 今 村 成 和 | 10 |
| フランスにおける立法過程に関する文献 ——J.P.ピュフラン氏の解説を中心に | 深 瀬 忠 一 | 13-1 |
| フランスにおける裁判官の独立について | 小 山 昇 | 16-2・3 |
| 4 行政法 | | |
| 行政法一般 | | |
| アメリカ行政法への試み ——その形成と問題 | 和 田 英 夫 | 2 |
| フランス行政法成立史 (一)-(三) ——行政裁判権の形成・確立をめぐる | | |

索引

| | | |
|---|-------|------------|
| (フランス行政法研究 その一) | 神谷 昭 | 12-2-3 |
| フランス行政法における公役務概念について | | |
| (一)-(三) (フランス行政法研究 その二) | 神谷 昭 | 13-1-2-3・4 |
| 法と行政 | | |
| イェシュにおける憲法構造論 (1) | 遠藤 博也 | 18-3 |
| 行政権限の競合と融合 | 遠藤 博也 | 19-4 |
| 行政行為・行政過程 | | |
| 複数当事者の行政行為 (1)-(3) | | |
| ——行政過程論の試み | 遠藤 博也 | 20-1-2-3 |
| 行政委員会 | | |
| 州際通商委員会 (I.C.C.) の成長と展開 | 和田 英夫 | 1 |
| 行政手続 | | |
| アメリカ合衆国州行政手続法研究序説 (一) | | |
| ——改訂モデル州行政手続法 | 熊本 信夫 | 18-1 |
| アメリカ合衆国都市行政手続法草案をめぐって | 熊本 信夫 | 19-3 |
| 行政訴訟 | | |
| 事実行為の取消訴訟 | 今村 成和 | 16-2・3 |
| 西ドイツ行政裁判所法に於ける一般概括主義 と行政裁判所の管轄権 (1)(2) | 秋山 義昭 | 18-3-4 |

5 民法

 民法一般

| | | |
|-----------------------|-----------------|-------------------------------------|
| 西ドイツ民法学の現況 | | |
| 附・ドイツ私法学者の経歴と業績 | 五十嵐 清 | 11-1 |
| ファンズムと法学者 | 五十嵐 清 | 14-3・4 |
| 「ロシア共和国民法典」邦訳 (1)-(6) | 五十嵐 清・ 佐保 雅子 | 16-1, 17-1-4, 18-3-4, 19-3 |
| 判例変更の限界 | | |
| ——民法に関する最高裁判例の検討 | 川井 健 | 17-4 |
| 民法総則 | | |
| 同一性錯誤と属性錯誤 | 米倉 明 | 17-2 |
| 物権法 | | |
| 封建的土地所有の公権力的性格 (一)(二) | | |
| ——Gewere に関する一試論 | 藪 重夫 | 5, 6 |

索引

| | | |
|------------------------|----------------|----------------------------------|
| 不動産の二重譲渡へのひとつのアプローチ | 半田正夫 | 16-4 |
| 流動資産譲渡担保論一斑 (1)-(8) | 米倉明 | 18-2-3-4, 19-2-3, 20-1-2-4 |
| 登記の推定力について | 神田孝夫 | 20-1 |
| 債権法 | | |
| 不動産賃借権の譲渡・転貸の自由性について | | |
| (一) — その比較法的考察 | 五十嵐清・ 山之内一夫 | 8-1-2-3-4 |
| 英法におけるフラストレイション法理について | | |
| — 事情変更の原則に関する比較的研究 | | |
| その一 | 五十嵐清 | 9-2 |
| ドイツ法における行為基礎論の発展 (一) | | |
| — 事情変更の原則に関する比較的研究 | 五十嵐清 | 11-4 |
| 西ドイツにおける私生活の私法的保護 (一) | 五十嵐清・ 松田昌士 | 11-4 |
| — 一般的人格権理論の発展 | | |
| 親族法 | | |
| △青山道夫「養子」(近代家族法の基礎理論) | 山嶋正男 | 3 |
| 扶養意識の諸様相 | | |
| — 北海道農村における意識調査より | 品川孝次 | 6 |
| 親族扶養の法的性格に関する一試論 | 藪重夫 | 7-2 |
| 西ドイツにおける新法定夫婦財産制について | 浅見公子 | 8-3-4 |
| イギリス夫婦財産法の諸問題 | | |
| — 戦後の判例の発展 | 浅見公子 | 10 |
| 審判による扶養料支払の始期について | 石川恒夫 | 11-2 |
| 養育費支払義務をめぐる諸問題 | 石川恒夫 | 12-1 |
| イギリスにおける妻の財産法上の地位 | | |
| (一)-(3・完) — 附 資料(制定法訳) | 浅見公子 | 12-3-4, 13-1 |
| 離婚と法的統制 (1) | 山嶋正男 | 16-1 |
| 身分行為における意思と届出 (1) | | |
| — 仮装身分行為の効力について | 山嶋正男 | 16-2-3 |
| 相続法 | | |
| 西独シュヴァルツヴァルト地方における | | |
| 農地の末子相続 | 川井健 | 10 |
| 遺産「共有」の法的構成 | | |
| — 共有論と合有論の対立をめぐって | 品川孝次 | 11-2 |

索引

西独ヴェルテンベルクにおける農地の一子相続

川井 健 12-1

6 商 法

商法総則

レヒツシャイン法理について

—表見支配人の研究 (一) 加藤 勝 郎 5

レヒツシャイン法理より見た商法第四十二条論

—表見支配人の研究 (二) 加藤 勝 郎 7-3・4

会社法

株式発行前の株式譲渡

大塚 市 助 5

法律体系中における社債法の地位

鴻 常 夫 10

発起人の契約

平 出 慶 道 12-1

株式会社不成立の場合における発起人の責任

(一) —発起人の地位の再検討 平 出 慶 道 12-2-3

引当金 (1)-(3)

藤 原 雄 三 19-1-2-3

海商法・保険法

△小町谷操三博士著「海難救助法論」

鴻 常 夫 7-1

保険の目的物の譲渡にともなう保険関係の変動

—ドイツ保険法の歴史的展開 石 田 満 14-1

7 民事訴訟法

請求について

小 山 昇 1

訴訟上の和解に関する判例

小 山 昇 3

家事審判について

小 山 昇 6

口頭弁論終結後の承継人について

小 山 昇 10

西ドイツにおける近年の訴訟物理論の分析

小 山 昇 11-1

事実関係について

—訴訟物理論の一断面 小 山 昇 11-2

審判による扶養料支払の始期について

石 川 恒 夫 11-2

訴訟物論

小 山 昇 11-3

référé について

小 山 昇 14-3・4

所有権確認の訴の利益不存在の諸形態

能 勢 弘 之 16-2・3

近年のわが国の判例に現われた訴訟物観に

ついて 小 山 昇 20-1

8 刑 法

△H. ヴェルツェル「目的的行为論の領域に

| | | |
|-------------------|---------|------------|
| おける刑法の現実的諸問題」 | 内 田 文 昭 | 7-2 |
| 過失共同正犯の成否 | 内 田 文 昭 | 8-3・4 |
| △荘子邦雄「労働刑法」 | 藪 重 夫 | 10 |
| 過失同時犯の正犯性 (1)-(4) | 内 田 文 昭 | 11-1-2-3-4 |
| 刑の権衡論について | 小 暮 得 雄 | 14-1 |
| 罪刑法定主義の比較法的動向 | 小 暮 得 雄 | 14-3・4 |
| 違法性と責任(序説) | 小 暮 得 雄 | 15-4 |
| 刑事判例の規範的効力 | | |
| ——罪刑法定主義をめぐる一考 | 小 暮 得 雄 | 17-4 |
| 月賦品処分の刑法的処理 | 米 倉 明 | 17-1 |

9 刑事訴訟法

| | | |
|----------------------|---------|--------|
| 刑事手続とデュール・プロセス | 田 宮 裕 | 14-3・4 |
| 司法上の決定とコミュニケーション | | |
| ——交通事故に基づく業務上過失致死傷事件 | | |
| に対する略式手続の合理化のために | 能 勢 弘 之 | 15-1 |
| 弁護権の実質的な保障 (1) | | |
| ——有効な弁護を受ける権利 | 田 宮 裕 | 16-2・3 |
| 捜査・自白・弁護権 | 田 宮 裕 | 17-2 |
| 公訴の利益 (1)(2) | 能 勢 弘 之 | 19-1-2 |

10 経 済 法

| | | |
|-----------------------|---------|---------------------|
| 経済法について | 今 村 成 和 | 18-2 |
| ドイツ経済法学説史略考 ——第二次大戦 | | |
| 終了前までの学説を素材として | 丹 宗 昭 信 | 19-2 |
| 西ドイツにおける経済統制法 (十三) | 金 沢 良 雄 | 6, 7-3・4 |
| 経済法における計画 | 金 沢 良 雄 | 16-2・3 |
| 米国反トラスト法における独占と取引制限 | | |
| ——私的独占禁止法の背景 | 今 村 成 和 | 2 |
| 反トラスト法における共同行為の認定について | | |
| (1)-(3) | 実 方 謙 二 | 15-4, 16-1, 18-3 |

索引

11 農地法

- 中華人民共和国の農地改革法について 小林 己智次 1
判例より見た農地調整法第9条 五十嵐 清 3

12 無体財産法

- 著作権の一元的構成について (1)-(5・完)
半田 正夫 15-1-2-3-4,
16-1
私的利用を目的とする音楽著作物のテープ録音
——西独著作権法53条5項制定の経緯 半田 正夫 17-2
出版の法理 ——出版契約に関する実態調査
を手がかりとして 半田 正夫 18-1

13 比較法

- 法系論序説 五十嵐 清 16-2・3
アメリカにおける比較法の研究および教育
の現状について 五十嵐 清 19-4
ドイツにおける比較法の発展 (1) 五十嵐 清 20-4

14 国際私法

- ソ連の民事法における新国際私法規定 欧 龍 雲 16-1
日華涉外身分法に関する若干の問題
——婚姻関係について 欧 龍 雲 17-3

15 外国法

英米法

- 英国家族相継産制度の沿革とその社会的・
経済的背景 (一) 三 宮 崎 孝治郎 1, 2
米国反トラスト法における独占と取引制限
——私的独占禁止法の背景 今 村 成 和 2
アメリカ行政法への試み
——その形成と問題 和 田 英 夫 2
Use 受益権とその史的性格 (一) 三 菅 原 勝 伴 6, 7-1
不動産賃借権の譲渡転貸の自由性について
(一) 三 ——その比較法的考察 五十嵐 清・
山之内 一 夫 8-1・2-3・4

索引

| | | |
|---|------------------|---|
| 英法におけるフラストレーション法理について ——事情変更の原則に関する比較法的研究 その一 | 五十嵐 清 | 9—2 |
| イギリス夫婦財産法の諸問題 ——戦後の判例の発展 | 浅見 公子 | 10 |
| イギリスにおける妻の財産法上の地位 (一) (3・完) 一附 資料 (制定法訳) | 浅見 公子 | 12—3-4, 13—1 |
| アメリカ合衆国における政教分離の原則 (1) (7) | 熊本 信夫 | 15—3-4, 16—1-4, 17—1, 18—2, 19—1 |
| アメリカにおける比較法の研究および教育の 現状について | 五十嵐 清 | 19—4 |
| ドイツ法 | | |
| 封建的土地所有の公権力的性格 (一) (二) ——Gewere に関する一試論 | 藪 重夫 | 5, 6 |
| 西ドイツにおける経済統制法 (一) (二) | 金沢 良雄 | 6, 7—3・4 |
| △H. ヴェルツェル「目的的行為論の領域に おける刑法の現実的諸問題」 | 内田 文昭 | 7—2 |
| 不動産賃借権の譲渡転賃の自由性について (一) (二) ——その比較法的考察 | 五十嵐 清・ 山之内 一夫 | 8—1・2-3・4 |
| 西ドイツにおける新法定夫婦財産制について | 浅見 公子 | 8—3・4 |
| ボン基本法と契約の自由 | 五十嵐 清 | 10 |
| 西独シュヴァルツヴァルト地方における 農地の末子相続 | 川井 健 | 10 |
| 西ドイツにおける近年の訴訟物理論の分析 | 小山 昇 | 11—1 |
| 西ドイツ民法学の現況 附・ドイツ私法学者の経歴と業績 | 五十嵐 清 | 11—1 |
| ドイツ法における行為基礎論の発展 (一) ——事情変更の原則に関する比較法的研究 | 五十嵐 清 | 11—4 |
| 西ドイツにおける私生活の私法的保護 (一) ——一般的人格権理論の発展 | 五十嵐 清・ 松田 昌士 | 11—4 |

索引

| | | |
|---|-------------------|-------------------|
| 西独ヴェルテンベルクにおける農地の一子相続 | 川 井 健 | 12—1 |
| 保険の目的物の譲渡にもなる保険関係の変動 | | |
| ——ドイツ保険法の歴史的展開 | 石 田 満 | 14—1 |
| ファシズムと法学者 | 五十嵐 清 | 14—3・4 |
| 西ドイツ農場令の違憲性 | 川 井 健 | 14—3・4 |
| 私的利用を目的とする音楽著作物のテープ録音 | | |
| ——西独著作権法53条5項制定の経緯 | 半 田 正 夫 | 17—2 |
| 良心的兵役拒否 (一)―(三) | | |
| ——ボン基本法四条三項の構造と特質 | 笹 川 紀 勝 | 18—1-2-3 |
| イェシュにおける憲法構造論 (1) | 遠 藤 博 也 | 18—3 |
| 西ドイツ行政裁判所法に於ける一般概括主義 と行政裁判所の管轄権 (1)(2) | 秋 山 義 昭 | 18—3-4 |
| ドイツ経済法学説史略考 —— 第二次大戦 終了前までの学説を素材として | 丹 宗 昭 信 | 19—2 |
| ドイツにおける比較法の発展 (1) | 五十嵐 清 | 20—4 |
| フ ラ ン ス 法 | | |
| 州際通商委員会 (I.C.C.) の成長と展開 | 和 田 英 夫 | 1 |
| フランス憲法史における条約と国内法 (一)―(三) | | |
| | 深 瀬 忠 一 | 7—2-3・4, 8—1・2 |
| 不動産賃借権の譲渡転貸の自由性について (一)―(三) ——その比較的法考察 | 五十嵐 清・ 山之内 一 夫 | 8—1・2-3・4 |
| バンジャマン・コンスタンの中立権の理論 | 深 瀬 忠 一 | 10 |
| フランス行政法成立史 (一)―(三) | | |
| ——行政裁判権の形成・確立をめぐる (フランス行政法研究 その一) | 神 谷 昭 | 12—2-3 |
| フランス行政法における公役務概念について (一)―(三) | | |
| (フランス行政法研究 その二) | 神 谷 昭 | 13—1-2-3・4 |
| フランスにおける立法過程に関する文献 | | |
| ——J.P.ビュフラン氏の解説を中心に | 深 瀬 忠 一 | 13—1 |
| G.エロー教授の法理論の特質 | 深 瀬 忠 一 | 14—2 |
| フランス憲法における社会権の発展 (1)―(3完) | 中 村 睦 男 | 14—2, 15—1-2 |

索引

| | | |
|---|------------------------------------|------------------------------|
| 1789年人権宣言研究序説 (1)―(3) | 深瀬 忠一 | 14―3・4, 15―1, 18―3 |
| référé について | 小山 昇 | 14―3・4 |
| A. エスマンの憲法学 | | |
| ——フランス現代憲法学の形成 (1) | 深瀬 忠一 | 15―2 |
| L. デュギイの行政法論と福祉国家 (a)(b) | | |
| ——フランス現代憲法学の形成 (2) | 深瀬 忠一 | 16―2・3・4 |
| M. デュヴェルジェ教授とJ. ロベール教授 を迎えて ——フランス憲法・政治学の若 干の側面 | 深瀬 忠一 | 17―3 |
| フランスにおける裁判官の独立について | 小山 昇 | 16―2・3 |
| △1965―1966年度フランス公法文献紹介 | 中村 睦男 | 17―4 |
| アメリカ合衆国州行政手続法研究序説 (一) | | |
| ——改訂モデル州行政手続法 | 熊本 信夫 | 18―1 |
| アメリカ合衆国都市行政手続法草案をめぐって | 熊本 信夫 | 19―3 |
| 社会主義諸国の法 | | |
| 中華人民共和国の農地改革法について | 小林 己智次 | 1 |
| ソ連の民事法における新国際私法規定 | 欧 龍雲 | 16―1 |
| 「ロシア共和国民法典」邦訳 (1)―(6) | 五十嵐 清・ 佐保 雅子 | 16―1, 17―1-4 18―3-4, 19―3 |
| 16 政治学 | | |
| △河合栄治郎「独逸社会民主党史論」 | 矢田 俊隆 | 1 |
| H・J・ラスキにおける自由 (一) | 富田 容甫 | 3 |
| 北海道民のポーティング・ビヘービアの諸類型 | 尾形 典男・ 富田 容甫・ 十亀 昭雄・ 中島 哲 | 4 |
| フリードリッヒ大王の統治について | 矢田 俊隆 | 4 |
| △M. デュヴェルジェ「政党論」 | 十亀 昭雄 | 6 |
| △H. ベリング「労働党の起源」 | 清水 昭典 | 6 |
| ルソー研究序説 | | |
| ——彼の政治的人間像をめぐって | 小川 晃一 | 9―1 |
| 第一次世界戦争におけるイギリス外交政策 形式の諸問題 (一)―(三) | 吉川 宏 | 9―1-2 |

索引

| | | |
|--|------------------------|---------------------|
| イギリスにおける政党と圧力団体の研究の 現状について | 十 亀 昭 雄 | 9-1 |
| イギリスの議会政治と労働党 (一)(三) | 十 亀 昭 雄 | 9-3-4, 12-2 |
| 地方都市中間層の生活心理と意識構造 (一) ——北海道帯広市における実態調査中間報告 | 大 江 健 | 9-3 |
| △リュティ著「フランスの時差」 ——Lüty, The State of France | 小 川 晃 一 | 9-4 |
| ロイド・ジョージとヨーロッパの再建 (1)-(4) | 吉 川 宏 | 13-2-3・4, 14-1-2 |
| 19世紀における政党政治の一断面 — F. M. L. Tompson, Whigs and Liberals in the West Riding 1830-1860 | 小 川 晃 一 | 13-2 |
| デカダントな社会における統合 (一) | 小 川 晃 一 | 14-1 |
| △J. プラムナツ「政治理論の効用」 ロックの自然法論 | 荒 木 俊 夫 | 14-1 |
| 北海道における地方制度の形成について (1)-(3) | 小 川 晃 一 | 14-3・4 |
| カルヴァンの教会理論 (1)(2) | 清 水 昭 典 | 16-4, 17-2, 18-4 |
| △Carman Blacker, The Japanese Enlightenment | 荒 木 俊 夫 | 16-4, 17-3 |
| 政治的態度の測定 ——その方法と予備調査—— | 松 沢 弘 陽 | 16-2・3 |
| フランスにおける政治生活 | 阿 部 四 郎 | 17-2 |
| La Vie Politique en France | ジャック・ロベール 深 瀬 忠 一 訳 | 17-3 |
| 内村鑑三の歴史意識 (1)-(3) | Jacques Robert | 17-3 |
| アメリカの二つの中欧研究誌について | 松 沢 弘 陽 | 17-4, 18-1, 19-4 |
| ルイス・ネーミアと18世紀英国政治 | 矢 田 俊 隆 | 18-3 |
| 行政機能の拡大が行政責任の形態に及ぼす 影響 (1) ——イギリス・大蔵省統制の 変容に関する一考察 | 阿 部 四 郎 | 18-4 |
| | 伊 藤 大 一 | 19-1 |

索引

| | | |
|---|------------------------|-------------------------------|
| ドイツ社会民主党指導者の状況認識と戦術 (1)(2) ——カール・カウツキーの場合 (その1) 1890-1900 | 山本佐門 | 19-2-3 |
| △エヴァン・ルアード「現代国際体系における 戦争と平和」Evan Luard, <i>Conflict and Peace in the Modern International System</i> , Little, Brown and Company | 吉川 宏 | 19-4 |
| 行政官養成における法優位主義の合意 (1) —スボールディングの近業に関連して— | 伊藤大 一 | 20-2 |
| 札幌郊外地区(手稲)の政治意識調査 (1) | (共同研究, 代表: 小川晃 一) | |
| I 人口構成 | 蓮池 穰 | 20-2 |
| △井上毅の「北海道意見」と井上馨の「北海道 ニ関スル意見書」 | 清水昭典 | 20-3 |
| 17 その他 | | |
| 最高裁判所破棄判例研究 | 北大法学会 | 7-1-2-3・4, 8-1・2, 9-2-4 |
| 松岡教授年譜, 著書・論文等目録 | | 10 |
| 宮崎孝治郎教授の業績について | 五十嵐 清 | 14-3・4 |
| 宮崎孝治郎教授略歴及び主要著作目録 | | 14-3・4 |
| 故神谷教授を偲ぶ | 今村成和 | 16-2・3 |
| 故神谷昭教授の略歴と業績 | | 16-2・3 |
| 大学管理制度に関する意見書および意見 社会に抗する学生たち | 北大法学会 | 14-2 |
| 「月刊レアリテ誌1969年8月号」から | タヌギユイ・ド・ケネタン 小山 昇 訳 | 20-3 |